4　学習支援に関する
アンケート調査結果及び考察

（１）調査の目的

学習支援員を配置した効果を検証するために、管理職を含めた全教員及び学習支援員、学習支援を受けた児童生徒及びその保護者、学習支援員が配置された学級の児童生徒全員に対して、アンケート調査を実施しました。

（２）アンケート調査の実施内容

①対象

研究協力校６校

教員（管理職含む）：小学校５５名、中学校２８名

児童生徒　：　対象児童生徒３５名、対象児童生徒以外３９３名

学習支援員：　小学校１１名、中学校４名

保護者　　：　小学校８名

②実施時期　　平成２３年６月

③実施方法

教員（管理職含む）、学習支援員、保護者へは、質問紙（選択及び自由記述）による調査を実施しました。

それぞれの立場における意見を聞くため、教員に対しては、『管理職』『特別支援教育コーディネーター』『その他の教員用』の３種類の質問紙を用意しました。

児童生徒に対しては、発達段階や支援の内容を考慮して、聞き取り調査または質問紙による調査を実施しました。

④主な調査項目

ア　学習支援員を配置したことによる学校組織への効果
①校内特別支援教育委員会の働き
②特別支援教育コーディネーターの役割
③特別な支援を必要とする児童生徒への共通理解
④個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成や活用
⑤特別支援教育に対する関心や研修の必要性
⑥学習支援に対する学校全体の意識
イ　学習支援員の配置された学級の変容
⑦担任の意識の変化
⑧支援内容の明確化
⑨学習支援を必要とする児童生徒の変化
⑩学級全体（学習支援を必要とする児童生徒以外）の変化
ウ　特別支援教室への影響
⑪特別支援教室の役割や運営の明確化
エ　学習支援員の配置
⑫児童生徒への支援
⑬学習支援員と特別支援教育コーディネーターや担任との連絡
⑭学習支援員の配置の有効性
オ　家庭での様子
⑮学習意欲の向上
⑯家庭学習への取組
⑰学習支援への期待

（3）結果と考察

ア　学習支援員を配置したことによる学校組織への効果

① 校内特別支援教育委員会の働きが活性化してきていますか

活性化していると考えている教員は、全体の８割を越えてい

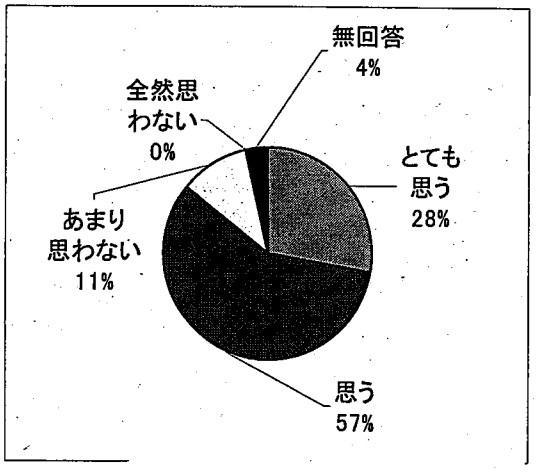


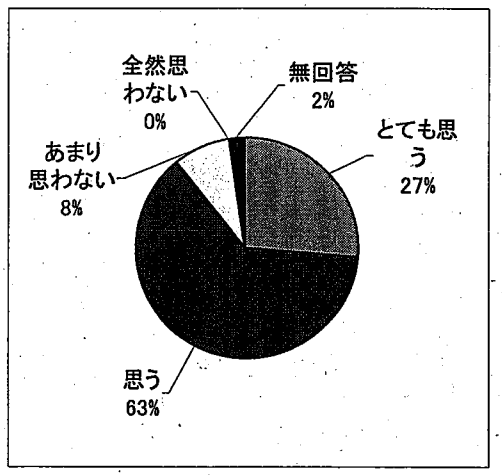
図２－１　校内委員会

ます。（図２－１）各校において学習支援員を受け入れることで校内委員会が活性化してきたことがうかがえます。

＜自由記述より抜粋＞

○目的、役割、内容が明確になった。
○専任がいることにより、中心となって進める人ができたため。
○支援員等に限らず、人がそこにいるということで、活動は停滞することなく、常に動的である。その目的の目指すところが具現化すれば、さらに質的にも高まっていくと推測される。
○必要な連携を密に取るためには、校内委員会を開いて、みんなの意見を聞く必要がある。必然的に活性化しているように思う。
○運用の仕方を模索してもらったので活性化しているように思う。今後も良い運用の仕方が工夫できる余地があると思う。
○支援員の目を通した子どものみとりが加わり、より深く子どもの学びを考えることができた。
○子どもへの支援は充実するものとなったが、組織的に動くことができたかというと、難しい。
○校内委員会は開催しているが、全校職員にうまく伝えられていない。

② 特別支援教育コーディネーターの役割が明確化し、担任等教員や他のボランティアと連携をとることが増えましたか



９割の教員が、連携が増えたと考えている。（図２－２）自由記述からは、連携を充実させるための時間の確保が難しい様子がうかがえます。

図２－２　特別支援教育コーディネーターの役割

＜自由記述より抜粋＞

○支援員、特別支援教育非常勤講師との話し合いを大切にし、問題点の整理と効果的な支援について協議していた。
○支援員を導入したことによる効果や課題について学級担任や支援員、特別支援教育非常勤講師と情報交換するようになった。
○だんだんと連携をとることができるようになった。
○連絡を密に取らなければ、回らない。連絡を取ることが増えた。さらに支援員の要望に気づき、担任の要望などを聞いて改善できるように努めることが増えた。
○「増える」というより「充実してきている」と思っています。

○コーディネーターが中心となって支援員と担任等との調整を図る姿が随所に見られた。指導の内容を更に明確化していかれると良いと思う。
○いろいろな人が関わってくれたことは感謝するが、多くの情報から取捨選択することが難しかった。
○役割は明確化されたが、よりよい連携をとるための時間が十分ではなかった。
○コーディネーターの先生が連携をとるためにとても忙しくなったように感じる。

③　特別な支援を必要とする児童生徒に対する教員の関心が高まり、教員間でより共通理解が図られるようになりましたか

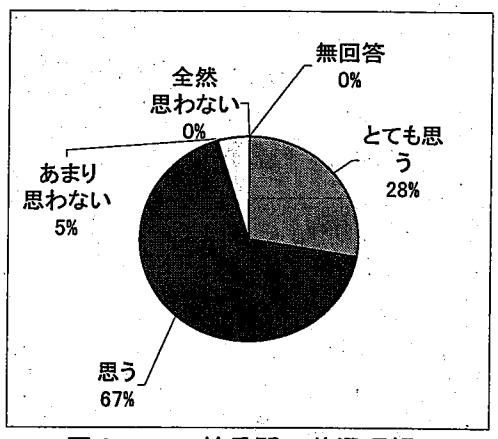


図２－３　教員間の共通理解

共通理解が図られていないと感じている教員は５％しかおらず、児童生徒の様子について学校組織としての共通理解が図られています。（図２－３）

＜自由記述より抜粋＞

○日常での情報交換が増えた。
○関わっている生徒が身近にいると関心が高くなるが、個人差があると思う。共通理解は図りやすくなったと思う。
○定例的な児童理解の全体会開催により、職員の意識は高まっている。ここへの支援員の参加を検討しても良いのでは。
○見えない部分が見えるようになってきて、助かった。個人的には特別支援への意識は高まった。
○校内研修というかたちで支援員事業の中間報告をし、職員の共通理解を図る場とした。
○昨年度一人の男の子に対する対応をみんなで考えるようになったのが印象的です。
○形としての整備が進んだと思います。持ち寄る情報や、持ち帰り実践するところにこれからの課題があると思います。
○学年間では共通理解が図られるが、次年度に引き継ぐ時間、手だての検討が必要。

④　個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成や活用への意識が高まってきていますか

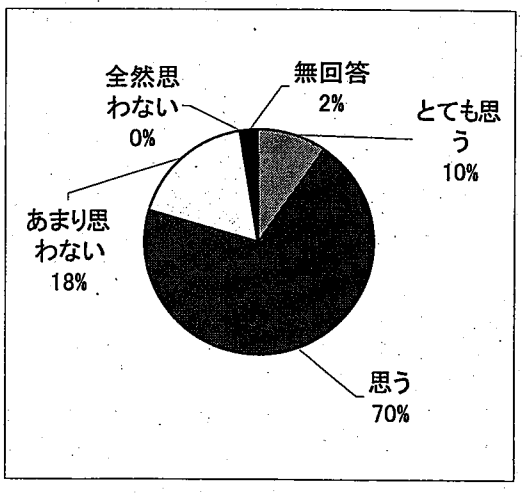


図２－４　個別の教育支援計画等の作成・活用

設問①～③に比べ、『とても思う』と回答した割合が低くなっています。（図２－４）自由記述でも、作成に向けて取り組んでいる段階の

回答と活用に向けて取り組んでいる段階の回答があり、学校による差が見られます。

＜自由記述より抜粋＞

○定例的な児童理解の全体会開催により、職員の意識は高まっている。ここへの支援員の参加を検討しても良いのではないかと思う。
○担任と学習支援員との共通の目標が必要であることが分かったためだと思う。
○学習支援員が配置されたことにより、より計画的に支援を考えていくようになった。
○作成時と反省時は活用できたが、日常的な振り返りはできなかった。
○意識は高まっているが作業時間の確保が難しい。
○必要性は感じるが職場全体の雰囲気として意識はまだ低い。
○作成の必要性を感じ意欲もあるけれど、実際に作成すると必要な時間の確保が難しい。
○個別の指導計画を作成できていない。

⑤　特別支援教育に対する関心や研修の必要性が高まってきていますか

９割以上の教員が、研修の必要性を感じています。（図２－５）適切な支援を実施しようと考えるほど、研修への必要性が高くなってきています。

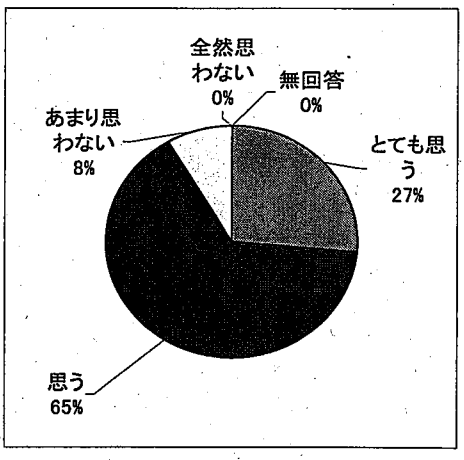


図２－５　研修の必要性

＜自由記述より抜粋＞

○対象児童に成果が見られたことで、どのように支援すればよいかをさらに教師自身が学ぶ必要性が出てきた。
○特に、T.T で学級全体をどうサポートすると効果的なのかについては研修を深めることが必要だと感じた。
○意識が高まるにつれ、より専門的な知識や対応策等を望むところが大きい。
○どの教師も子どもの困り度を減らす支援策を知りたいと思っているので、研修には積極的に参加している。
○個別の事案が多岐にわたるので自分の中で幅を広げたい。
○TTとしての入り方や打ち合わせの仕方などの研修を行う必要性を感じた。
○発達障害（アスペルガー、ADHD）やうつ、人格障害、自閉症について研修が必要。
○必要性は高いが現実問題は難しいのでは？

⑥　学習支援に対する学校全体の意識に変化が見られるようになりましたか

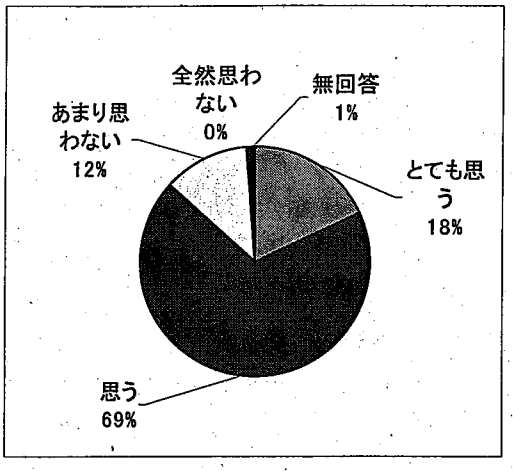


図２－６　学習支援への意識

９割近い教員が、意識の変化を感じています。（図２－６）授業の展開や個に応じた支援についてだけでなく、教員自身の『教室に他の教員や支援者が入ることへの抵抗感』がなくなったという意識の変化もみられます。

＜自由記述より抜粋＞

○特別支援教育に対する理解が深まり授業の中で支援が必要な生徒をより意識しながら授業展開を図るようになった。
○一人で抱え込まずに、と思うようになりました。
○個の学習の保障に目がいくようになりました。
○事前打ち合わせや支援のねらいなどに関心がいくようになった。
○求めれば応じてもらえる「当たり前感」が出てきたように思う。対応、調整してくれる人に感謝。
○教室に他教員や支援員が入ることに抵抗がなくなった。チームで取り組む体制が受容できるようになった。
○支援員が入っているクラスと入っていないクラスではこの事業に対する職員の意識に差がある。共有するための場を設けるようにしている。
○学習支援員とのかかわりがない職員にも、支援員配置による効果を広める必要性がある。

イ　学習支援員を配置したことによる学校組織への効果

⑦　学習支援員が学級に入ることにより、学級経営や授業作りに対する担任の意識に変化が見られましたか

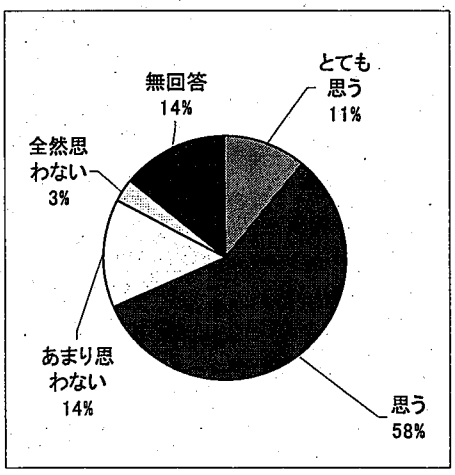


図２－７　学級の変容

『とても思う』『思う』を合わせると６割の教員や学習支援員が変容を感じています。（図２－７）他の設問に比べ無回答が多かったのは、自分の学級に学習支援員が入っていないために答えられなかった教員が多かっ

たためと考えられます。自由記述の中にも、『自分のクラスに入っていないので』という記載が目立ちました。

＜自由記述より抜粋＞

○落ち着きが見られる。担任の笑顔が増えた。途中からだれが支援に入っても分かるような、授業の形が取られている。
○注意して見てほしい児童に対して、意識してみるようになった。
○一人で見るのと二人で見るのとでは違うなと実感した。見えにくい部分を想定してみてもらうことができた。
○支援が必要な子に対する、関わり方をより吟味するようになったと思う。
○生徒の指導はもちろんだが、授業自体に先生方がより集中できるように感じた。
○要支援の生徒が安定した生活ができるようになると教室全体が静かで落ち着いた雰囲気を作り出すことができ、結果としてクラスの集団が静かで落ち着くようになった。
○支援員が入ることにより子どもたちの実態をより細かく見ることができるようになった。その分、担任の気づきも多くなり、それが学級経営や授業づくりの改善につながりつつある。
○自分のクラスに入っていなかったため、分からない。
○定期的に入ってくだされば もっと変化が見られたように思う。

⑧　学習支援が必要な児童生徒への支援内容が明確になりましたか

学習支援員が入ることで、支援内容の明確化が図られたと考えている回答が７割を越えています。（図２－８）無回答については、設問⑦と同様、学習支援員の入っていない学級担任等が回答しなかったためと考えられます。

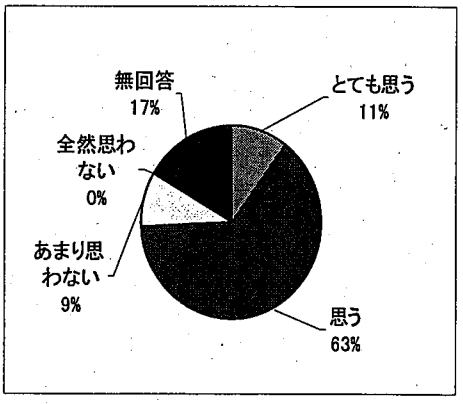


図２－８　学習支援への意識

＜自由記述より抜粋＞

○具体的な支援内容を学習支援員に依頼しようとしています。
○支援してほしいところをお互いに把握できた。
○やったという充実感を他の授業へつなげられる児童もいる。
○TTで入ることが普通になり授業がわからないときに生徒は気軽に尋ねることができる。
○やることは変わらないが、指導者が多いほどたくさんの生徒の面倒をみられる。
○支援をして頂く中で、だんだん支援内容が明らかになっていきました。支援員さんと打ち合わせをする時間をもっととりたいです。

⑨―1　学習支援を必要とする児童生徒の学習意欲が向上したり、安定して学校生活を送れたり等の変化が見られましたか

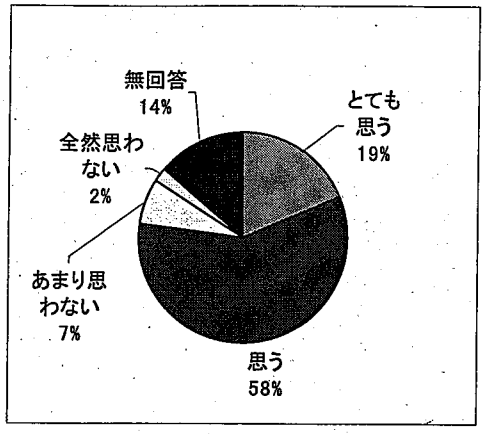


図２―９　対象児童生徒の変容

８割近い教員や学習支援員が児童の変容を感じています。（図２－９）自由記述からも、具体的な変容が見られます。教員が個に応じた支援内容を意識したり、学習支援を適宜行ったりすることの効果は大変大きいと考えられます。

＜自由記述より抜粋＞

○児童の表情が穏やかになり、自信に満ちたものになった。荒れることが少なくなった。登校を渋ることがなくなった。

○授業がはじまる前に教科書を準備したり、挙手して発言したりできるようになった。

○秋は最後まで集中を切らさず取り組むことを目標にしていましたが、現在では支援が必要ないレベルまで変わりました。

○誰かに聞きたいときにすぐに聞ける状況がいいのだと思う。

○一人ではなかなか学習に取り組めず、ついていけていなかった児童が一対一で教えたり声をかけたりすることによって、学習に対する姿勢が前向きになりました。

○達成感や成功体験を積んだことが自信や意欲につながった。

○板書を写すことができなかった児童ができるようになったり、学習意欲の持続が可能にあったりと、子どもの学習態度に向上が見られた。

○もともと学習意欲がある子でしたが、本人への声かけやお家の方への連絡で、筆箱の中身をそろえるといった学習環境を整えることができたと思います。

○わからないときに「これどうやるの？」と学習支援員に質問するようになった。ノートをとれるようになった。ノートのとり方が統一されるようになった。

○授業がわからないことへの不満や不安は取り除けたと思います。

○できること、できないことが明確になり支援の計画がたてやすくなった。

○休み時間に一人でいた支援対象の生徒が支援員を通して他の生徒と少しずつ会話が弾むようになったことがありました。

⑨―2　変容した項目を選んでください。（重複回答可）

教員・学習支援員・対象児童生徒を対象に、それぞれ変容したと思った項目について調査をしました。その結果を表２－１に示しました。

＜表２－１　対象児童生徒の変容＞

学習支援員さんと一緒に勉強をしてよかったことを○で囲んでください。（重複回答可）

質問項目	対象児童生徒			担任等	
	総数	順位		総数	順位
・先生の話が分かるようになった	17	③		13	⑦
・答えられることが増えた	14	⑥		14	⑥
・本読みが上手になった	9	⑧		4	⑩
・ノートのとり方が上手になった	17	③		18	⑤
・整理整頓が上手になった	9	⑧		5	⑨
・学習の準備ができるようになった	10	⑦		12	⑧
・最後まで取り組めるようになった	18	②		24	④
・苦手な勉強も頑張れるようになった	15	⑤		32	②
・提出物や宿題をわすれなくなった	14	⑥		1	⑪
・勉強が分かるようになった	14	⑥		24	④
・分からないことを質問できるようになった	17	③		31	③
・分からないことを調べる方法が分かった	9	⑧		4	⑩
・友だちと仲良くなれた	16	④		13	⑦
・学習支援員さんに話を聞いてもらえた	21	①		38	①

表２－１から分かるように、ほとんどの児童生徒が自分の変容を自覚できていました。また、教員と学習支援員が変容したと考えた項目と児童生徒自身が変容したと考えた項目は、ほとんど重なり、学習支援を行ったことへの評価の一致が見られます。表２－２にそれぞれの上位５項目をまとめました。

＜表２－２　対象児童生徒の変容 Best5＞

順位	対象児童生徒	教員と学習支援員
1	・学習支援員とかかわることができた	・学習支援員とかかわることができた
2	・最後まで取り組めた	・苦手な学習にも取り組めた
3	・先生の話が分かる ・ノートのとり方がうまくなった ・分からないことを質問できるようになった	・分からないことを質問できるようになった
4	・友達と仲良くなれた	・最後まで取り組めた ・学習の理解が進んだ
5	・苦手な学習にも取り組めた	・ノートのとり方がうまくなった

「友達と仲良くなれた」という項目が、対象児童生徒の４位にあがっている

点は注目すべきことであり、『学習が周囲と同じようにできる・分かる経験』や『友達にも分からないことがある』ということを知ることで、自信が得られたり、友達との心理的距離が近づいたりしたのではないかと思われます。

また、学習支援員が友達関係の仲介役になったとも考えられます。

⑩―1　以前よりも、学級全体の学習環境が整ったり、落ち着いた雰囲気が感じられたりするようになりましたか（対象児童生徒以外の変容がみられましたか）

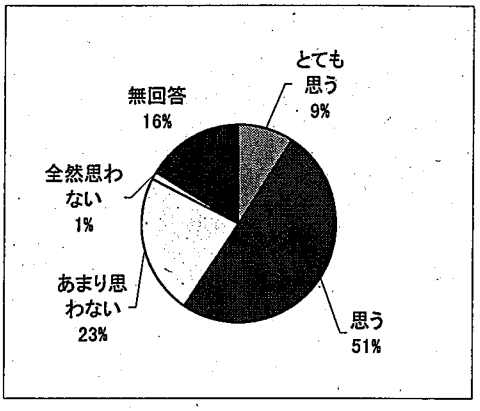


図２－10　対象児童生徒以外の変容

対象児童生徒のみならず、６割の教員や学習支援員は学級全体への効果を感じています。（図２－10）学習の理解だけでなく、友達関係、学級の雰囲気など、波及効果の様子が自由記述からうかがえます。

＜自由記述より抜粋＞

○話をきいてもらうことで安心し、落ち着いて授業に取り組むことができた。
○何回か入っているうちに、周りの子ども達も支援している子に「頑張って」「あと2問だよ」などと声をかけてくれるようになった。
○複数の目があり、自分をしっかり見取ってくれることから、学習に対して真摯になった。
○他の児童も支援を受けられるので、授業中の集中度が高いように思われる。特別な支援を受ける児童に対する理解も高い。
○分からないところが有った時に担任の先生だけでなく、支援員にも質問が出来るので、質問の回数が増えて授業に積極的になってきたと感じます。細かい質問を答えることによって授業全体の流れはスムーズになったと思います。
○対象児童だけでなく、クラスの子から気軽にわからないところを質問してもらった。学習支援員が間に入ることで休み時間にいつもとは違う子と遊ぶ様子が見られた。
○教科書を出したり不必要なものを片付けたりできるようになった。

⑩―2　変容した項目を選んでください。（重複回答可）

教員・学習支援員・対象児童生徒以外の児童生徒を対象に、それぞれ変容したと思った項目について調査をしました。その結果を表２－３に示しました。

＜表２－３　**対象児童生徒以外の変容**＞

学習支援員さんと一緒に勉強をしてよかったことを○で囲んでください。（重複回答可）

質問項目	対象児童生徒以外		担任等	
	総数	順位	総数	順位
・先生の話が分かるようになった	148	③	13	⑤
・答えられることが増えた	127	⑤	8	⑦
・本読みが上手になった	41	⑬	0	⑩
・ノートのとり方が上手になった	105	⑧	8	⑦
・整理整頓が上手になった	36	⑭	5	⑧
・学習の準備ができるようになった	86	⑩	10	⑥
・最後まで取り組めるようになった	136	④	16	④
・苦手な勉強も頑張れるようになった	166	②	18	③
・提出物や宿題をわすれなくなった	54	⑫	1	⑨
・勉強が分かるようになった	181	①	18	③
・分からないことを質問できるようになった	126	⑥	26	①
・分からないことを調べる方法が分かった	66	⑪	5	⑧
・友だちと仲良くなれた	100	⑨	13	⑤
・学習支援員さんに話を聞いてもらえた	108	⑦	19	②

学習支援の対象とはなっていない児童生徒にとっても、学習支援員が配置されたことのよい影響があらわれています。教員と学習支援員が変容したと考えた項目と、児童生徒自身が変容したと考えた項目には、学習支援を受けた児童生徒同様重なるものが多くありました。（表２－４）

＜表２－４　対象児童生徒以外の変容　Best5 ＞

順位	対象児童生徒以外	教員と学習支援員
1	学習の理解が進んだ	分からないことを質問できる
2	苦手な学習にも取り組めた	学習支援員とかかわることができた
3	先生の話が分かる	学習の理解が進んだ 苦手な学習にも取り組めた
4	最後まで取り組めた	最後まで取り組めた
5	答えられることが増えた	先生の話が分かる 友達と仲良くなれた

対象児童生徒だけでなく、対象となっていない児童生徒自身も「学習の理解が進んだ」「苦手な学習にも取り組めた」と変容を実感しており、学習支援があることの有効性がうかがえます。

ウ　特別支援教室への影響

⑪　特別支援教室の役割や運営が明確になってきましたか

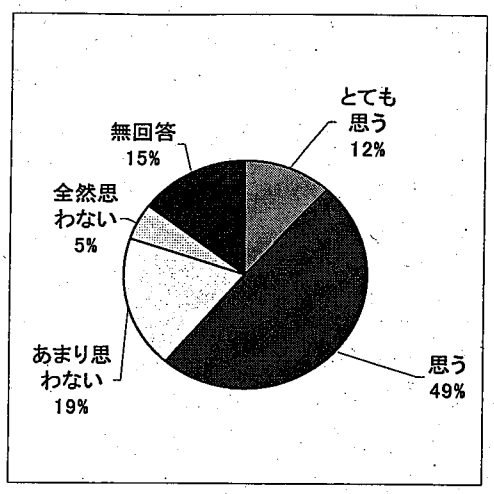


図２－11 特別支援教室の役割の明確化

平成２１年度に全校整備が完了した特別支援教室ですが、活用のスタイルは各学校事情によって異なっています。今回の事業では、在籍級における支援が中心でしたが、学習支援を通して半数以上の教員が特別支援教室の有効利用の在り方について考えた様子がうかがえます。（図２－11）

＜自由記述より抜粋＞

○クラスで声をかけるよりも、特別支援教室で環境をかえて支援する方が一人一人としっかりと向き合え、児童の態度や学習意欲にも変化が見られるようになりました。
○児童にとって一対一で指導されるので時間をかけて一つひとつ丁寧に学ぶことができる。
○該当の子ども達は、その部屋に行くことを喜んでいます。行くことで「わかる」ことが実感できているからでしょうか。これは、役割が明確になり、活動が推進されているからだと思います。
○児童により対応の区別をすることが大切であると認識できた。
○この事業に関連して使用はしていないため。
○生徒一人に専門の別室対応支援員がつくシステムにしている。支援員が来校するときに登校できるようになった。
○取り組みの内容がわからない。

エ　学習支援員の配置

⑫　児童生徒に寄り添った支援ができていましたか

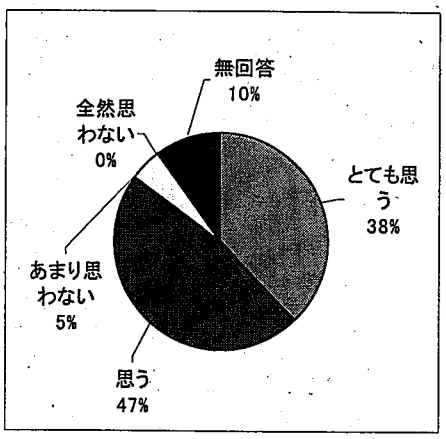


図２－12 寄り添った支援

８５％の教員と学習支援員が実態に応じた支援ができていたと評価しています。（図２－12）

＜自由記述より抜粋＞

○子ども、担任、支援員との信頼関係も出来、支援員の自覚も高まり大変有効な支援が出来た。
○45 分授業の中で児童と一対一で勉強でき、分からない内容もすぐに解決ができる。
○集団の中で遅れてしまう子、入れない子に声をかけ、話をきいてあげることで、本人も満足し集団全体もまとまる。
○担任と学習支援員との連携が密であるほど、子どもの実態に合った支援ができた。
○子ども達との信頼関係作りからしっかりと取り組んでもらった。効果的、効率的な支援を心がけ支援にあたってもらった。
○子どもの様子に合わせて、見守ってくださったり近くで支援してくださったりと寄り添った支援をして頂きました。
○子どもが分からない所やつまずいていた所を、分かりやすくていねいに教えてくださいました。
○生徒との年齢が近い大人は必要だと思います。
○単語の綴りや発音をリスニングの直前にあらかじめ教えておくといった個別対応を細かくしてあげられました。同じ子の傍らに付きっきりになることができず支援をためらうこともありました。
○ある程度は寄り添えたと思うが、中学生との距離感は難しかった。

⑬ 特別支援教育コーディネーターや担任等と適切に連絡が取れましたか

具体的な連絡を適切にとることができていると感じている教員、学習支援員が９割以上います。（図２－13）しかし、自由記述からは時間の取り方や連絡の仕方などには課題があることがうかがえます。

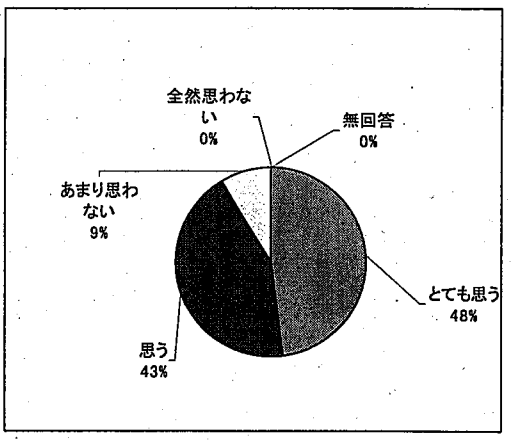


図２－13 適切な連携

＜自由記述より抜粋＞

○その日の子ども達の生活状況など重要な点についてコーディネーターの先生や担任の先生方と連絡を取り合うことが出来た。この情報などからその日の支援の入り方や方法を考えた。
○毎日の日誌や、職員室・教室での情報伝達（授業前・授業後）、メールでのやり取りなど、先生方と密に連絡が取れました。
○出勤時間の中にコーディネーターとの打ち合わせの時間を作っていただき、見通しをもって活動することができた。また、迷ってしまうことなども相談することができた。
○当日あった出来事や対応で困ったことをすぐに相談することができました。先生方に親身に相談にのっていただき心強かったです。
○授業前後で、どのように支援をしたら良いかなどアドバイスを頂いています。またこちらも気になったことをできるだけ報告するようにしています。
○指示が的確だったため、大変動きやすく報告書（日報）を作成し今日の生徒の様子を伝える仕組みはとてもやりやすかった。
○朝の打ち合わせや放課後に相談することができた。

○私の場合は、お願いしたことやお話したことがすぐにフィードバックされたので、ありがたかったです。先生方はいろいろとお忙しいので、実際はなかなか難しいのかなと思います。
○担任の先生との打ち合わせを、もう少し多くできたら良かったと思います。教室での様子がよくわからなかったので・・・。

⑭　特別支援を必要とする児童生徒及び学校組織にとって、学習支援員が配置されることは有効であると考えますか

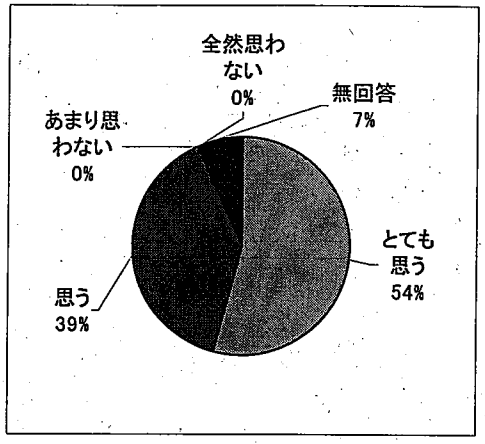


図２－14 配置の有効性

教員、学習支援員、保護者を対象に調査しました。いずれの立場においても、その有効性は実感されています。（図２－１４）自由記述においても有効性を認める記述が大変多く、学習支援に対する必要性や期待の高さがうかがえます。

＜自由記述より抜粋＞

○支援を必要とする児童生徒にとってはクラス全体のための先生（担任）だけでなく、自分のためにいてくれる先生（支援員）がいることで、SOS を出しやすい、また SOS を察知しやすい環境を作り出せるので、学習生活ともに向上出来ると思います。また、学級にとっても、対象の児童への対応が支援員に専門化される文、クラスの児童が安定した指導を受けられることが予想されます。それによりクラス全体が安定すると考えられます。学校組織・担任の先生にとっても、対象児童の様子等を見る「目」が増える、ルビふりなど個別に必要な対応がとれる
○息子は漢字がよく読めないので、ルビをふっていただき助かりました。すべての科目、読めないことには前に進めないので。
○学習支援員が配置されることにより、担任の負担も減り、いろいろな角度から児童を見ていくことができると思います。
○支援を必要とする児童に一人でも多く関わることができる。
○クラスの雰囲気をつかんでやっていただければ有効であると考えます。
○大人の目が増えることで子どもの実態について拾える情報量が多くなる分、支援の手立ても考えやすくなった。
○教師の専門性や教歴が違うので、それを補うことは大切だと思います。
○授業に遅れが出たときに、本人に一番安心を与えてくれると思います。
○児童一人ひとりのニーズに細かく対応できることはもとより、指導者間の共通理解が深まることにより、学校組織全体で一人ひとりの子どもを大切に育てる意識が深まる。
○他の子ども達と同じペースではついていけないことがあるので、とても有効だと思います。
○学級に一人でも特別支援を必要とする児童がいる際に、担任の先生だけでは全体への指導と個別の指導を両立することはとても大変だと感じた。学習支援員が入ることでできることが増えると感じている。対象児のみならずほかの児童にとっても質問や確認をできる大人が増えることは安心感

につながると思われる。

○支援の先生と話したり、勉強ができて楽しいと言ってくれる生徒がいました。学力向上は難しいかもしれませんが、学級の雰囲気が良くなり、また、大人の目が増える点で有効だと思います。

○児童・その担任、保護者にとっては有効だと思う。ただ、ほんらいならば教職員を増員してきめ細かい支援ができるようにすべき。

○今やクラスに10人近くいる発達障害等を抱えているといわれている状況なので支援員をもっと増やしてほしいです。

オ　家庭での様子

小学校で学習支援を受けた保護者を対象に調査しました。

⑮　学習意欲が向上しましたか

９割近い保護者が、子どもの意欲の向上を認めています。（図２－１５）

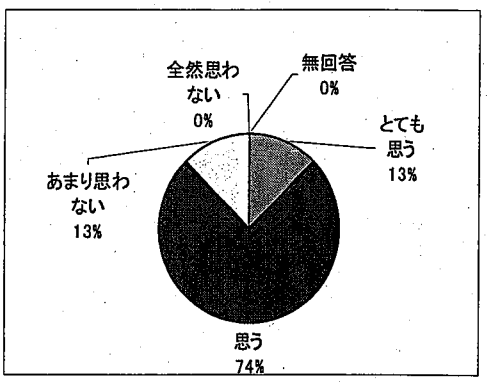


図２－15 家庭での学習意欲

＜自由記述より抜粋＞

○勉強が楽しく思えています。

○以前に比べると向上しました。

○「分かる」ことがあるということで、意欲が向上したように思います。

⑯　家庭での学習への取組に変化がありましたか

『とても思う』と回答した割合が大変高く（図２－１６）、設問⑮と合わせて考えたとき、あらためて『分かる』ということがとても重要であることが分かります。

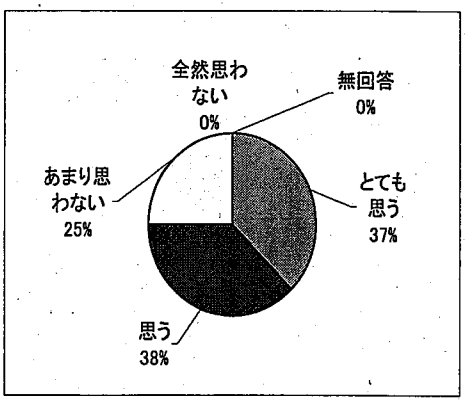


図２－16　家庭学習の変化

＜自由記述より抜粋＞

○すすんでプリントを見ています。

○その日に教えて頂いた事をもう一度家でも復習しています。他にも勉強するようになりました。

○学習の取り組みへの変化はないが、学校に行こういう気持ちにつながっていると思う。何もわからず机に座っているのはつらい。この支援だけではないが、支援があることで息子は学校に行けたと思う。

○授業内容での子どもの理解度が分かるので、理解に時間がかかったところは家で勉強させました。
○家庭ではあまり変化はありませんでした。

⑰　今後も、学習支援を受ける機会があれば活用したいと思いますか

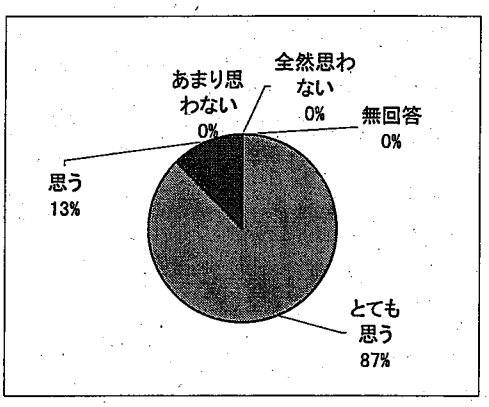


図２－17　学習支援への期待

今回、学習支援を受けた保護者のすべてが今後の活用を希望しています。（図２－１７）必要に応じて支援を受けられるシステム作りが期待されていることがうかがえます。

＜自由記述より抜粋＞

○活用したい・・・どころか、支援がないと息子は学校に行けなかったと思う。
○子どもが嫌がらなければ、活用したいと思います。
○子どもによいものを考えています。
○ぜひお願いしたいです。

（３）まとめ

学習支援員を配置したことにより、校内委員会が活性化し、特別支援教育コーディネーターの役割がより明確になってきたことが分かります。そのことは、支援の必要な児童生徒への校内における共通理解が図られること、支援内容が明確になることにつながり、個別の指導計画の活用への意識が高まることになります。

つまり、学習支援員を活用するということは、学校にとって学習支援を必要とする児童生徒の実態を正しく把握する、学校組織として適切な支援を考えることにつながります。言い換えれば、学習支援員を有効に活用できることが、学校の組織力の向上につながり、そのことが学習支援を必要とする児童生徒だけではなく、すべての児童生徒への指導支援の充実の基盤となっていくことが明らかになりました。